

1. モイスを施工する前に



注意事項 警告

- ① モイスは、天然素材を使用して、紙漉きと同じ“抄造法”で作られています。そのため、仕上げ面の風合いが若干異なる場合があります。製品性能には問題ございませんが、ご理解の上、ご使用をお願い致します。
- ② モイスの施工は、下地・用途別の推奨方法に従い施工してください。標準施工と異なる場合、強度不足等によりモイスが外れ、ケガをするおそれがあります。
- ③ モイスを切断する際には必ず保護メガネ・防塵マスクを使用し、手袋・長袖の作業着を着用し、皮膚が露出しないようにしてください。また適切な集塵装置を使用し、現場の作業環境を保守してください。作業後は、うがい及び手洗いを励行してください。粉塵が大量に体内へ入ると、人体へ悪影響を及ぼすおそれがあります。
- ④ モイスに割れ・ヒビなどがある場合は、使用せず交換等の処置をお願いします。
- ⑤ モイスの曲面加工については、“4. モイスの加工について”を参照願います。
- ⑥ モイスを使用した壁に手すり、エアコン、フック等負荷がかかるものを取りつける場合は、必ず下地を取付けるか、柱の部分に取り付けるようにしてください。下地材は、厚さ12mm以上の合板または、35×105mm以上の受け材を推奨いたします。



お願い 注意

- ① 製品の破損・機能低下の原因となるおそれがあります。搬入時には下記事項をお守りください。
屋内の平らな場所に床面からの湿気を防ぐように、10cm以上の角材などを使用して下さい。保管は高さ1m以内を限度として下さい。水濡れや汚れを防ぐため防水シート等で養生してください。
- ② 荷降ろし、小運搬の際は、“3. 荷姿、保管取扱いについて”を参照願います。小分けの際は、角部の損傷を避けるためモイスを引きずること無く、持ち上げるように作業してください。欠けおよび破損、ひっかき傷またはテカリ等の不具合の原因になります。モイスの表面が汚れた場合は、“8. お手入れの仕方”に従ってメンテナンス処理をしてください。
- ③ モイス表面の軽微な傷は、仕上り目に沿って研磨紙擦りすることにより、目立たなくすることができます。研磨番手#60～#150の順に使い分けながら研磨紙擦りをおこなって下さい。
- ④ 梱包用の“捨て板”は梱包資材（緩衝材）のため、使用しないで下さい。捨て板は四隅を赤く塗装するなど、製品と区別してあります。
- ⑤ 接着剤・両面テープ及びプライマーはモイス推奨品をご使用ください。推奨品以外の接着剤・両面テープを使用すると、接着剤・両面テープに含まれる成分によって、モイス表面が汚れたり、シミになるおそれがあります。
- ⑥ 木製下地材は、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用してください。含水率の高い木材を使用した場合、その水分がモイス表面へ染み出し“シミ”になるおそれがあります。
- ⑦ モイスを内装仕上材として使用する場合には、GL工法での施工はしないでください。GLボンドの成分がモイス表面へ染み出てしまい、シミになる恐れがあります。
- ⑧ 不燃材料として使用する場合、面取り・切削加工箇所の板厚は4mm以上であることを確認してください。
- ⑨ モイスは、多孔質素材で、吸水性に富んでいます。常時、水がかかり、頻繁に水汚れ等が考えられる湿潤な場所（浴室など）や油がかりするレンジ廻り等への使用は適しません。
- ⑩ ねじで固定する場合は、モイス端部より15mm以上離れた位置にねじを打ち、固定してください。端部近くにねじを打つとモイスが破損するおそれがあります。

◎「壁・天井」施工上の注意

【事故例】

モイスの高い吸水性により、下地材の水分が染み出し“シミ”になるおそれがあります。

下地材の含水率が高い材（グリーン材）などの場合

モイス

水分の移動によるモイス表面への染み出し

水分の移動